



みずみどり

2026 年 8 月 1 日

第 175 号

発行：いたばし水と緑の会

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会

<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>E-mail : mizumidori@nifty.com

連絡先 坂本 郁子 板橋区中台3-27-E505 090-4618-1295

木陰の涼しさを測ってみた

温暖化による暑さ対策として木陰の涼しさが注目されています。植物が水を吸い上げ、葉から水分を蒸発させて温度を下げる仕組みを、絵で表現してパネルをつくり、展示しました。そこで、身近な場所で、気温を測定してみようということになりました。

気温は百葉箱で観測されます。百葉箱を使わずに、直射日光や照り返しを防ぎ、出来るだけ正確に気温を測定するよう、手作り百葉箱をつくって測定しました。



温度は、感熱部の高さ 1.2m で測定した。

植物の葉の総面積が涼しさに影響します。
また、一方で舗装された地面は蓄熱効果が高く、暑くなります。



手作り百葉箱

長さ 30.5 cm、幅・奥行き 4.5 cm のプラスチック製の箱の向かい合う 2 面に 2 cm ごとに窓を 7 つ作り、空気が通るようにし、箱の底は照り返しを受けないように、白いテープを貼りました。感熱部は底から 7 cm 上。

気温を測定した場所(赤塚ため池公園内)

① 城址斜面林の下

木がうっそうと茂っていて葉が幾重にも重なっている。下草も生い茂っている。入るとひんやりと涼しい。赤塚トンボ池の奥。



② 梅の木の子

美術館近くの梅の木、1 回目は下草が生えていたが、その後刈られた。木陰ではあるが、葉の量が少ない。

手作り百葉箱



③ 舗装された路面

ため池公園の園路（透水性舗装？）。路面は手で触ると熱い。木や草もない。

手作り百葉箱



測定結果（地表温度は、非接触赤外温度計による）

測定日 測定場所	気温(°C)		地表温度(°C)	
	6 月 14 日	7 月 11 日	6 月 14 日	7 月 11 日
①城址斜面林の下	24	28	21.4	26.8
②梅の木の枝、下草あり	25	31	23.7	30.6
③舗装された路面	28	32	36.8	44.8

気温・地表温度ともに①城址斜面林の下が一番低く、次に②梅の木の枝、一番暑かったのは③舗装された路面となりました。一番涼しい①と一番暑い③の温度差は、気温については両日ともに4℃となりました。地表温度についての温度差は、曇りの6月14日は14.4℃、晴れた7月11日は18℃の差がありました。いずれも樹木や草の緑の量が多いほどが温度は低くなりました。舗装された地面は蓄熱効果により、土の地面よりはるかに熱くなると言われているが土の地面がないため比較していない。暑い夏を涼しく過ごすためには樹木や草の緑を増やしていくことが重要であることがわかりました（鈴木 より子）。

「エコライフフェア夏」

エコライフフェア夏が6月28日(日) セブントウン小豆沢1階アベニューで開催されました。11 団体が出展し地球温暖化防止や省エネに関わる活動について展示やワークショップを行いました。



会場は買い物客や板橋区ホームページ等を見て来場した親子連れなどで賑わいました。

いたばし水と緑の会では「すずしい緑、樹木は天然のクーラー」をテーマに ①木の働きを絵で表したパネル、②セブントウンの目の前にある小豆沢公園の樹木の減少や湧水池の水の量が減少していることを10年前の写真と現在の写真で比較、③手作り百葉箱で測定した赤塚溜池公園内の温度差、④ 5/24付け日本経済新聞の記事「消える木陰、世界と逆行」のコピー等を展示しました。

展示を見ている人に話しかけると樹木の多い場所とアスファルトの温度差に驚いたり、近くに住んでいるのに小豆沢公園を知らない人、公園内を散歩したことがない人などがいて、日々の生活の中で身近にある公園の樹木や草花に目がいかないものだと感じました。

クイズラリーの質問、「建物の日かげと木の下ではどちらが涼しいですか？」の問いに「建物の日かげ」と答えた子供が意外と多く、パネルの木の働きの絵を見てもらいヒントを出して正解の「木の下」へ答えを導いていきました。

街にもっと樹木が増え子供たちに木の下が涼しいことを実感してほしいです。

クイズラリーは5ヶ所以上の展示ブースの質問に答えると景品がもらえるので子供から大人まで150人近くが、ブースに立ち寄りしましたが、慌ただしく他のブースに移る人が多く樹木の大切さを上手く伝えられない自分の力不足を感じました。

これからも地球温暖化と樹木の関係について解りやすく伝えることができるよう考えていこうと思いました（小林 悦子）。

エコライフフェア夏がセブントウンで開催されました。いたばし水と緑の会のテーマは「すずしい緑～樹林は天然のクーラー」です。

昨年展示した1本の木の絵（樹木の働きと生き物と植物の関わり）は来場した人の目に入ったと思う。

セブントウンの前は公園なのでこの機会に現在と8年前を見比べて自然が少しずつ減っていく状況を知ってもらう。

たくさんの工作ブースに人が集まる中、残念ながら展示に工夫したが見てもらえなかった。クイズも説明したが意味を理解してもらえたかどうか。温暖化が話題になっており樹木の働きについて関心をもってもらいたかったが、自然の力（恩恵）を理解するのはむずかしいと思った。

それでも私達の展示をよく見て理解されお話しできた人は大学生2名と女性数名おられました。聴覚障害者が熱心に見てくれました。ノートを置いて感想を書いてもらいました。同じ気持ちになり嬉しかったです。

木は落ち葉や鳥が集まるなど苦情が多いと剪定され、庭木のようにコンパクトに切られてしまっているのが現状です。熱中症を少しでも減らせるよう、木陰ができるような剪定と、今ある木を守ってほしいと思います。切れば森になるまで50年かかりますから（佐藤克子）

バッタ広場の生き物しらべ

今年も朝から太陽が照りつけた。7月25日（土）9時の気温が32度。この暑さで生き物調べは出来るだろうか心配した。参加者は年齢幅が広く小学生4名、中学生1名、大学生（留学生）1名、保護者4名、スタッフを入れると17名が参加した（ボランティアセンター主催）。

美術館前をスタートすると目の前にオオタカの幼鳥がいた。皆の足が止まり、飛び立つまで見守った。珍しい鳥に出会えて改めて赤塚城址公園の自然を感じた。途中、赤塚溜池公園の梅林の木にセミの抜け殻を見つけると興味津々さっそく虫取りが始まる。

赤塚城址公園に着くと一面広い原っぱだ。特にバッタ広場はこの場所を借りて虫が草を食べに来るように、草を刈らないで生き物が住めるように残していることを説明した。皆それぞれ虫取り



バッタ広場（写真の奥）は、クズや若い木が生い茂って、歩く小道に沿って、茂みから姿を見せる生き物を探します。手前の草原は、イネ科の植物が育ち、バッタの暮す草原です。

少年、少女になって暑い中夢中になって頑張りました。採った昆虫を透明容器に移し何の昆虫か特徴も解説しました。バッタ広場ではショウリョウバッタが一番多く採取されました。子供たちは、採った昆虫を持って帰りがたが、虫を持って帰ると卵を産めなくなると虫は増えなくなると教えてあげていた。年々虫が減っているね、と会員同士で話しましたが、生き物調べができるのはこの自然のおかげだと思いました。

採取した生き物

カナヘビ2、ショウリョウバッタ8、キリギリス（クビキリギリス）幼2、オオカマキリ（緑色と茶色）幼4、モンシロチョウ1、ヤマトシジミ、マルカメムシ（ダニ付き）1、アカサシガメ幼1、クロカナブン、マメコガネ、アオドウガネ、クマバチ1、ベッコウハゴロモ1、クモ2、ダンゴムシ2、セミの抜け殻（ニイニゼミと？）、クモ抜け殻2（18種）

（佐藤 克子）



採集した生き物を容器に入れて観察した

赤塚ため池の生き物たち

水草の花・トンボ・カルガモのヒナ



5 月末から水中の藻（オオカナダモ）の花が咲いています。7 月、オオカナダモはますます見事に育ち、浮き上がって水面に小さな花を一面に咲かせています（写真左）。オオカナダモの上をショウジョウトンボとコシアキトンボが飛んでいました。水の中の藻のジャングルは、トンボのヤゴの隠れ場所になって



いるのでしょう。

釣竿にショウジョウトンボが止まっていた。 「イトトンボがいるだろう？」と言われましたが、わかりませんでした。ため池の杭にヤゴの抜け殻がありました。

去年はチョウトンボが大発生したそ

うですが、今年もチョウトンボが発生し、バッタ広場に飛来したトンボを鈴木さんが写真を撮りました（右）。

釣りのおじさんによると 6 月 6 日にカルガモのヒナ 5 羽が現れ、12 日には全部いなくなったそうです。写真はカメラ

マンからいただいたヒナの写真（6 月 11 日撮影）。誰が食べたのか？

以前はカラスがヒナを食べると話題になりましたが、池には泳ぎのうまいアオダイショウもいます。城址で繁殖したオオタカが捕獲したのでは、という人もいます・・・真相はわかりませんが、5 羽のヒナが忽然といなくなったのです。

以前はカルガモのつがいや次々に産卵していたのですが・・・

男性が池の中に入って、オオカナダモを刈り取っていました。池を管理する清掃の人ではなく「ボランティア」です。「水草が繁茂すると釣りが出来ないから」と言っていました。

見ていると大きなコイがぬっと姿を見せました。護岸をつついています「コイがザリガニを食べるので、ザリガニはほとんどいない。子供達はあっちの池（私たちの赤塚トンボ池のこと）でザリガニを捕ってる」そうです。

ため池の水は信じられない位透明です。魚やカルガモの糞や生き物の死骸、釣り餌などが、藻の栄養になり、増えた藻を刈り取って・・・水は浄化されているのです（坂本 郁子）



活動・観察記録(6月～7月)

トンボ池

手入れの余裕がなくて、雑然としているが、何かしら生き物がひそんでいる。水面には、オオシオカラトンボが激しく飛び交い、産卵し、ホシホウジャクが水浴びをし、オオスズメバチも来る。見かけた生き物は、テングチョウ、シマサシガメ、クロウリハムシ、エサキモンキツノカメムシ産卵、ツバメシジミ、オオミズアオ幼、オオカマキリ幼他。



トンボ池に来たオオタカ。水を飲みに来たらしい



トンボ池にあるミズキの幹に白いキノコが発生。そこにテントウムシ位の大きさの虫が、キノコを食べていた。モンキゴミムシだマシだと教えてもらった。いろんな生き物がいて、食べるものもいろいろなんですね。

ザリガニ

ザリガニは、雨天等を除き週3回捕獲している。6月～7月は601匹。毎回、大から稚ザリガニまで多世代がいます。つまり日本の人間社会と違って、多世代の家族は、将来も安定していることが想像できます。徹底捕獲3年目だが、減るのだろうか。地元の小学生が柵を越えて入り、トラップをひっくり返したり、ザリガニを捕ったり、が続き、将来が見通せず、落ち込みます。

バッタ広場

生き物しらべに向けての下調べ(7月12日)

(トンボ池) チュウゴクアミガサハゴロモ、ハバチ(?), ホシホウジャク水浴び、アカボシゴマダラ、(梅林) ニイニイゼミ抜け殻、キマダラカメムシ幼、(バッタ広場) オオカマキリ幼、クビキリギス幼、チュウゴクアミガサハゴロモ多、カナヘビ、オジロアシナガゾウムシ、イオウイロハシリグモ、ナガコガネグモ、ハエトリグモ、棚グモ、アカボシゴマダラ、クヌギ枝虫こぶ、クヌギ葉虫こぶ、コフキコガネ、コクワガタ雌、シオヤアブ、ササキリ幼、オオウンモンクチバ、クズ(花)

生き物しらべに向けての下調べ2(7月20日)

上記の他にクワカミキリ、ノコギリクワガタ(城址下)、オオケマイマイ(城址下)

その他 ヒメジャノメ、カノコガ、ツマグロヒョウモン、コムスジ、ナミアゲハ、等

活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は 坂本まで 090-4618-1295

高齢社会での活動です。作業はほどほどに、お楽しみや探検を取り入れてやっていきます。会員の方も会員でない方も、無理をしないでご参加ください。

●赤塚ビオトープの手入れ（道具は用意します。保健は個人で加入して下さい）

赤塚トンボ池 板橋美術館横の小さな池です。生き物たちのための土の池です。

バッタ広場 赤塚城址の郷土資料館の上あたり。生き物たちが暮らす草原ビオトープです。

活動日時（第2日曜日と第4土曜日）（サマータイムです）

8月9日（日）9時30分から11時（有志で観察とちょっと手入れ）

8月22日（土）9時30分から11時（有志で観察とちょっと手入れ）

9月13日（日）9時30分から11時（活動内容は未定）

9月26日（土）9時30分から11時（バッタ広場の手入れ）

集合場所 赤塚トンボ池

持ってくるもの 汚れてもよい服装（長袖、長ズボン）と汚れてもよい靴、作業手袋、帽子、飲み物、

予告

1 環境フォーラム「板橋の自然をまもろう」

日時 10月25日（日）午後1時半から4時（会場：エコポリスセンター）

講演会「グリーンインフラで支える板橋の生物多様性」

講師 千葉大学教授 木下 剛

発表と意見交換会

コーディネーター 日本生態系協会環境教育センター所長 田邊 龍太

2 赤塚公園どんぐりまつり

日時 10月31日（土）（雨天の場合は11月1日（日））

●ボランティアの参加を歓迎します。ご意見や自然情報もお寄せください。

ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

いたばし水と緑の会は、自然と共生するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、自然樹林地の調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があります。不定期ですが区外の自然や保護活動の見学も実施しています。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費 2000 円：振込先は表紙に記載）。